

津山工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	コミュニケーション学Ⅱ
科目基礎情報				
科目番号	0111	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	なし			
担当教員	角谷 英則			
到達目標				
学習目的：社会学的な思考の方法をまなぶことを通じて教養を深め、視野をひろげること。 到達目標：人文・社会科学的な視点から地域社会の抱える諸問題について多面的に理解し、地域社会の一員としてその解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	十分に授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	2/3以上の授業に参加すること	10時間をこえて欠席すること
評価項目2	指示に十分に合ったレポートを提出すること	指示にある程度合ったレポートを提出すること	指示に最低限したがったレポートを提出すること	指示に従ったレポートを提出しないこと
評価項目3	なし	なし	なし	なし
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別：一般 人文・社会 必修・履修・履修選択・選択の別：履修選択 基礎となる学問分野：社会学 学科学習目標との関連：本科目は一般科目学習目標「（５）国際性に富んだ人材を育成するための幅広い教養を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球的視野に立った人間性の育成」「B-2:地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」である。 授業の概要：この授業においては、コミュニケーションに関する具体的問題を個別具体的にとりあげ、その社会学的把握をめざす。			
授業の進め方・方法	授業の方法：基本的には演習形式によって進める。 成績評価方法： 原則として2回の試験または口頭報告で評価する（50%×2）			
注意点	履修上の注意：本講義では、授業時間外における学生自身による準備が必要となることに留意されたい。また本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが、これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：カリキュラムにおいて設定されている時間数に比するなら、学習内容は膨大である。授業において、すべてを網羅することは不可能なので、図書館の利用などによる主体的学習が望まれる。 基礎科目：世界史（1年）倫理（1）日本史（2）政治経済（2） 関連科目：社会科学概論（専2） 受講上のアドバイス：遅刻に対するペナルティは特にもうけないが、受講者の良識を期待する。			
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	
		2週	課題の設定	以下、当該週のための準備および学習内容の定着を行う。
		3週	演習	
		4週	演習	
		5週	演習	
		6週	演習	
		7週	演習	
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	演習	
		10週	演習	
		11週	演習	
		12週	演習	
		13週	演習	
		14週	演習	
		15週	後期末試験	
		16週	演習	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0